

声をかける勇気

山本小学校 六年

みなさんは、分かっているのに、周りの意見に合わせて、声をかけられなかったという経験はありますか。私はあります。

今から一年前の五年生の時です。五月に宿泊訓練があり、班決めをしていました。「一人がでない。」「みんなが納得する。」という条件で、自分達で班のメンバーを決めることができました。

まずは、男女分かれて決めます。そこで、問題がおきました。みんなが仲良く一緒に決めているなかで、一人の子があまってしまいました。その子は、私達の班がいい。と言っていて、私も賛成でした。けれど、私の班の子は、賛成していないようで、直接「いや。」とは言っていなかったけど、雰囲気その子に「いや。」と言うのが伝わってしまい、泣いてしまいました。結局、その子は、自分の意思で決めた班ではなく、ちがう班になってしまいました。私は、それを見て、声をかけてあげることができませんでした。なぜなら、

私の班の子は賛成していないのに、私が「一緒の班になろう。」なんて言ったら、正直、何かかげで言われるのではないかと思いました。でも、これはまちがいで、後から、「何であの時声をかけなかったのだろう。」そして、「あの時勇気を出して声をかければよかった。」と、とても後悔しました。それと同時に、私は周りから何か言われるのではないか、という恐怖だけで自分から声をかけることもできないのかと思うと、自分が情けないなと思いました。私がした行動は、直接的にしたことではないけど、「無視。」していることになります。無視、それは立派な「いじめ」です。

このようなことがおきないように、どうしたらいいのかを考えてみました。主に二つあります。

一つ目は、自分の立場になって考えて、その行動、言葉が正しいのかを考えることです。私自身、友達に体のことを言われ、いやな気持ちになったことがあります。でも友達は、悪気はなかったと思います。思ったことを、素直に言っただけだと思います。でも、私にとっては、いやな気持ちになりました。言葉とは、とても重いものです。相

手の受けとり方によっては、いやな気持ちになることだってあると思います。だからこそ、その行動や、言葉を言って、相手が傷つかないかを考えることが大切だと思います。

二つ目は、勇気を出して声をかけることです。私の経験でも、話したとおり、とても後悔しました。周りから何かを言われるのではないかという恐怖だけで、見過ごして、傷つけてしまいました。だから、いじめられている子や、こまっている子には、見過ごすのではなく、声をかける勇気が大切だと思います。

みなさんは、こういう時どうしますか。もしかしたら、あなたの一言で救えることがあるかもしれません。